

頭張れ店長

なぜ辞めていくのか

3月は卒業の季節。職場でも卒業＝退職があります。できたら定年退職が望ましいのですが、諸般の事情で中途退職する人が少なくありません。ホールでも入社数年で辞める社員に頭を悩ませている店長さんは多いでしょう。いったいどんな事情で部下が辞めていくのか、各地の店長さんに話を聞きました。

引き留めるべきだが

「入社3年目の男性社員から転職を考えているけど、どうしようかと相談を受けました。今の職場では自分が50歳になったときの姿が想像できないと言っています。確かにホールの現場は若い社員が多く、50代となると本社の部長クラスになります。」

上司としては引き留めるべきでしょうが、私は『自分の人生なのだから、自分で納得する生き方をしなさい。後悔先に立たずだからね』と言いました。それから半年

ほどして彼は食品関係の商社に採用されて転職しました。会社は彼に期待していただけに、私は営業部長から叱られました。喜んで送り出しました」(関東・A店長)

彼が会社を辞めていくとき、「店長の言葉に背中を押されました。有り難うございます」と感謝されたそうです。

父のがんでやむを得ず

「私の部下のマネジャーが昨年、実家の葬儀社を継ぐために退職しました。将来を期待していただけに残念でした。彼は一人息子ですが、仕事の仕事だけに家業を継ぎたくないと言って好きなパチンコを職業に選んだそうです。」

しかし、父親ががんで入院を繰り返すことになり、葬儀社を継ぐことを選んだと言います。業種はまったく違いますが、これまでの仕事で培った接客のノウハウや、とっさの事態への対応も身につけているので、10年間のキャリアは

ムダではなかったと思います」(中部・B店長)

親が老いたり大病をするなどして家業が危うくなると、それまでの勤めを辞めて実家に戻って手伝うというケースは少なくありません。自分を育ててくれた親に恩返しをしたいのでしょうか。

接客買われ喜びの転職

「女性アルバイトがブライダル会社の正社員に採用されました。以前からブライダル業界で働きたくて応募していたのですが、どこもダメだったのがホールで働くようになったのです。」

彼女が言うには、今回ブライダル会社に採用されたのはホールで働かせていただいたおかげなのだそうです。笑顔の接客や呼び出しランプに素早く対応することを教えられ、それが面接で評価されたと喜んでいました。そう言われて、私も嬉しくなりました」(中部・C店長)

職場は仕事のルールや社会のマナーを学ぶ場でもあります。

店長からの投稿

うちの会社は入社10年、20年、30年の節目に長期休暇を取ることができます。

入社10年目のときは独身だったので、1週間の休みを取って北海道から九州までドライブで回りました。

今年は入社20年目なので10日間の休みが取れます。小学生の子どもが2人いるので、学校の夏休みに1週間の日程で海外旅行を考えています。家族の希望を聞いていますが、「韓ドラ」にはまっている

妻は韓国、スイミングスクールに通っている長男はハワイ、「赤毛のアン」が好きな長女はカナダとバラバラ。夏休みまでに話がまとまるか心配です。私はカジノ

があるラスベガスかマカオに行きたいのですが、候補地がこれ以上増えると収拾がつかなくなるので遠慮しています。(関東・店長)

勤続20年の休暇 行きたい国はどこ 家族はバラバラで

それを体得したアルバイトはステップアップして新しい職場に巣立って行くのです。

意外にも介護の仕事へ

「男性アルバイトが介護施設の正社員に採用されたといって退職しました。意外な転職先なので、『どうして介護施設なんだ。仕事はきついし、給料は安いだろう』と訊くと、彼は『将来、親の介護』

をしたいんです。介護のプロになって、親が認知症になっても世話できるようにしたい」と転職の理由を語ってくれました」（関東・D店長）

同業他社へは冷たい目

「入社4年目の男性社員が全国展開するホール企業に転職しました。他店に勤務していた人間ですが、上司だった店長やマネジャーは会社から厳しく叱責されたそうです。入社数年で退職するケースは珍しくありませんが、同業他社に行く者は、会社に育てられた恩返しをせず、しかも自社の営業ノウハウを持ち出すのですから『裏切り者』という目で見られます。そういう場合は職場でも送別会を開いてもええません」（関東・E店長）

同業他社に転職すると厳しい目で見られるため、「実家の仕事を継ぐの」とか「これから再就職先を探します」といった口実で退職することもあるそうです。

「3か月辛抱しろ」の効果

「私自身、若い頃に転職を考えたことがあります。学生時代の友人が大きな仕事を任せられたと喜ぶのを聞いて、自分は今の仕事を続けてそんなチャンスに恵まれるの

だろうかと迷ったのです。そのとき入社3年目でしたが、それまで自分が本当に納得する仕事をしたことがなかったので、一つでも納得できる仕事をしたら転職しようと考えました。もう少し、もう少しと辛抱しているうちにホールの仕事が目白くなって今日に至っています」（中国・F店長）

部下が退職を申し出ると、F店長はこの話をして、「あと3か月だけ辛抱して、それでも辞めたかったら辞めてよろしい」と言っています。それで2人に1人は退職を思いとどまるそうです。

「しっかり働いた卒業式」

「私たち店長の直接の上司である営業部長が昨年退職しました。まだ50代半ばでしたが、後進に道を譲りたいし、好きな釣りに明け暮れたいという理由でした。仕事に厳しいけれども部下には優しいところもある部長で、店長たちが相談して『卒業式』と称して歓送会を開き、潮の満ち引きがわかるタイドグラフ付きの腕時計をプレゼントしました」（関東・G店長）

人一倍頑張って働き、定年前に辞められるだけの蓄えもして、「あんな人生を送りたい」と思わせる営業部長だったそうです。